

“来年 12 月には 10 歳の南相馬図書館！次のステップを皆で想像しましょう！！”

計画同人 寺田芳朗・小林春奈

梅雨明け間近の 7 月 7 日、としょかんの TOMO 主催の市民と図書館員の集いに、設計者・計画同人の寺田と小林が参加してお話しました。なつかしい顔が並ぶ楽しい会でした。

集いの呼びかけは、以下のようなコピーライトでした。市民一人ひとりを支える…それは、遠くにいる



方々を、学校の生徒さん達を、地方自治を、故郷を、支える図書館。それぞれの方々の課題の解決に役立つ図書館をと考えてきた、もうすぐ 10 歳のわたしたちの図書館の物語のつづきは?! 各地の新しい図書館づくりの話題を材料に、図書館員の皆さんと一緒に、南相馬図書館 10 年目、第二章のお話しをいたしましょう。

鎌田孝子 TOMO 会長さんのご挨拶があって、そして、はじまりのテーマは、1. もうすぐ 10 歳の私たちの図書館…利用者の目、図書館員の目、から話そう。

①がんばってきたね！統計でわかる図書館の今：登録率、貸出冊数、アウトリーチ。→移動図書館がはじまって →学校図書館につながって→サービス指標の目標。そして、サービスの質を考えてきた。

②さて明日は？本の森、図書館サービスの枝をどう伸そう：資料世界、図書館の施策。→出会っていない 57.7% の市民に向けて、何が出来るか?!

→資料世界のブラウジングはさらに魅力的に、どんな工夫を？

→資料とサービスの魅力、場の提供の魅力、出会いの機会の魅力！

地域資料に明るい寺田亮学芸員さん、図書館チームの若手佐藤美希司書、子ども奉仕の 佐藤真紀司書、レファレンスに強い早川大輔司書、開館以来の活躍の高橋将人司書が、いまの南相馬図書館について、それぞれのご体験を交えて皆さんにお話しをされました。

つづいて、近年の他市各地の図書館での取り組みについてご紹介をしました。

2. 図書館が「市役所（地方自治）」を支える。

① 根本彰著「続情報基盤としての図書館」（日野市立図書館市政図書室での調査から）

② 戸室幸治著「地域資料・情報サービスの本格的展開を」（みんなの図書館誌の連載）

③ 片山善博講演録「地域づくり・人づくりと図書館」「図書館のミッションを考える」

④ 文部科学省の研究会発表資料から「地域の情報ハブとしての図書館」について。

最近話題に上がる「課題解決型の図書館」とはどのようなものか話題提供し考えました。

3. 図書館員のしごと、最近こころ動いたこと、ありますか。

設計者たちがお手伝いした図書館と長くお付き合いを続ける中で、館員から伺ったり、話題になったことごとをご紹介し、南相馬で開館以来の「こころ動いた話」いくつかを、高橋将人さんからうかがいました。これには、私たちもあまりにうれしくなったので、書き記すのを控えておこうと思います。図書館が図書館に成って行く話でした。 — 1 — (P.2 につづく)

当日の会場には、南相馬市の図書館をつくり育てた方々のお顔もたくさん見えました。

陣頭で井戸を掘った人渡辺一成元市長さんや、今も応援団長の小川尚一議員さん、図書館に集い支える TOMO のお仲間たち。中央館開設の中心に居て今は有隣館館長の安齋久司元館長は、これまでを振り返り思いをお話しされました。

第二部懇親会では、堀川信浩館長と開館以来図書館を守っている齋藤亜記子司書さんとも、図書館のお話しがつつきました。

まるでこれから図書館をもう一度創るような熱気であったことに、驚く思いでした。

《TOMO主催 第31回 講演会》に参加して…



「南相馬の図書館職員の方にこれからやりたいことを聞くと、それぞれ職員ごとに別の答えがかえってくる。これは面白い。図書館は総合力ですから！」寺田設計士が愉快そうにおっしゃいました。皆さんはどうでしょうか？図書館がどんなふうになってほしいですか？

今年12月で9歳の誕生日を迎える南相馬市の図書館ですが、10年という節目が目前に迫っています。

そんな中、今回の第31回講演会は、寺田設計士を囲んで「これからの図書館はどちらに進んでいくのだろう」ということを自由に考える温かい雰囲気になりました。寺田設計士から最近の図書館を取り巻く環境をお話しいただき、図書館建設時から現在までの10年ですら、随分状況が変わっているのだと勉強不足を反省したところです。

最近、子どもたちの笑顔や、中高生の活発な話し声が以前より一層聞こえてくるようになり、図書館の長い時間のひと時をつないでいる喜びを感じることが多くなりました。親から子へ、子から孫へ。モノはもちろんですが、目に見えない様々なことを、市民の皆さんは今この瞬間も運び続けているのだろうと思います。私も司書として、15年目、20年目、30年目と南相馬の図書館と一緒に歩いていきたいと強く思った1日でした。

(南相馬市立中央図書館 司書 高橋将人)

来年度いよいよ10周年を迎える南相馬市立中央図書館。今回の講演会では図書館の今後のあり方について語り合いながら、図書館で働く私たち職員からも、自己紹介を含めて少しお話しをさせていただきました。皆さんの前に出たときはとても緊張しましたが、寺田設計士やTOMOの会の方々の前で自分の思いをお話しできるととても良い機会となりました。ありがとうございました。

私は小さいときから福島市に住んでおり、父の実家がある南相馬には夏休みなどによく訪れていました。その後南相馬に移り住み、図書館で働き始めたのが平成25年(もう5年も経ったのか…と月日の早さに驚きです)。社会人としても初めての職場であり、様々なことを図書館で学び自分の中に吸収していきました。その中には南相馬の図書館独自の取り組み・特色などもありましたが、それは他の図書館を勉強したり見学していく中で改めて気づくことが多かったです。これからは現状を維持していくだけではなく、改善できる場所を見つけたり、他から学べる部分があればどんどん取り入れていきたいと思っています。図書館にはそれぞれ得意分野を持った職員、他の図書館を経験してきた職員もいらっしゃいます。職員同士学びあい、力を合わせて、この図書館を成長させていきたいと思っています。

(南相馬市立中央図書館 司書 佐藤美希)

南相馬市立中央図書館を設計した寺田芳朗さん。カウンターでお客様に当館の設計者を聞かれ、そのお名前をお答えすることはあっても、実際にお目にかかったことはありませんでした。その寺田芳朗さんを再び南相馬市に迎え、お話を聞く機会を作ってくださいました「としょかんの TOMO みなみそうま」の皆様、本当にありがとうございます。

寺田設計士から、完成して9年弱になる当館に今も関心を寄せ、「としょかんの TOMO みなみそうま」の会報にも目を通してくださっているというお話を聞き感激すると同時に、その図書館に勤務するものとして身が引き締まる思いでした。

講演会では寺田設計士による図書館情勢、そして図書館の選書（本を選ぶ）における分野別担当制の良さもお話いただきました。当館では選書の際に分野別担当制を取っておりますので、そのお話を伺い、本当に心強く思いました。

参加した職員一人一人がお話する時間もいただきましたが、自分以外の職員の話聞き、それぞれが色々な背景や図書館に対する思いを持っているのだということ再認識する良い機会となりました。図書館ではカウンター業務や外の仕事など、バラバラに仕事をする時間が多く、なかなかお互いのことや今後について話す時間ありません。しかし、それぞれが10年、20年先を見据えて仕事をし、そして、その思いを職員間はもちろん、市民の皆様と共有していく必要性を感じました。皆様からもぜひ今度の図書館に期待する事などを私達に伝えていただければ幸いです。

（主任司書 佐藤真紀）



現在の図書館ができてから来年で10周年、と言われても私にとっては、まだ1年目の職場であり、いまひとつ実感に乏しいというのが正直なところでした。しかし、今回の講演会を通して…としょかんの TOMO みなみそうまの皆さんや設計士の寺田さん、現職ではない方も含め様々な立場のスタッフ、そしてたくさんの方々の利用、多くの方々がそれぞれの思いを持って図書館に関わり、作り上げてきたのが現在の図書館なのだという…をしみじみ感じさせられました。

その図書館に、私も図書館員の立場に関わることになったわけですが、職歴だけはいくらかあるとはいえ、まだまだ未熟です。私個人としても図書館全体としても、講演会で聞いたこと、話したことはもちろん！その他にも、やりたいこと、しなければいけないこと、期待されることは尽きませんが…。一方でそのすべてを直ちに実現するには力が足りず、また、時には様々な課題に直面して判断に迷い、途方に暮れることもあるだろうと思います。そのようなとき、今回知ることができた多くの方の思いを「前に進む力」とし、「道標」とさせていただきたいと思います。そうして、未来の南相馬市の図書館を形づくる一石なりとも積むことができれば幸いです。

（南相馬市立中央図書館 司書 早川大輔）



～図書館ものがたり第二章に期待…～

TOMO 副代表 西 チイ子



市民の誇りでもある私たちの図書館が、9年目を迎えようとしています。開館10周年を間近に7月7日TOMO主催第31回講演会が、当館設計者の寺田芳朗氏をお迎えして開催されました。はじめに、寺田氏は南相馬市立中央図書館が開館して以来、

大震災を乗り越えて、これまで歩んできた経過を統計的に見て、貸出冊数や登録率などについてお話しくささいました。10年を物語の「第一章」とするなら、「第二章」はどんな物語にするかに例えて、講演を進められました。

次に図書館で活躍して下さっている司書の佐藤美希さん、佐藤真紀さん、早川大輔さん、高橋将人さん、小高記念文学館学芸員の寺田亮さんが、それぞれ日頃の仕事に対する考えやこの図書館に対する思い、利用者との心温まるエピソード等を交えてお話されました。

いつもはカウンターでお世話くださったり、移動図書館でお付き合いくださったりと、仕事上での顔しか分かりませんでした。加えて、それぞれが利用者の立場に立って常に工夫されていて、より良いサービスに向けて日々努力されていることを知る機会をいただきました。市民として、またTOMOの一員として、とても嬉しく思うと共に、今後の図書館物語の「第二章」は更に充実して益々、発展していこうと確信したひと時でした。

それにしても、寺田氏がこれまで寄せてくださる、この図書館への熱い想いと温かな心！更なる充実を目指して関わってくださる真心と誠意には、感謝せずにはられません。

数多くの図書館建設に携わっておられる豊かな経験からのひとこと一言には、深慮に基づいたずっしりとした重みがあります。

図書館サービスや運営に対するお褒めの言葉や心強い貴重なアドバイスをいただいたことは、今後の発展に大きく影響して行くに違いないと思われました。

秋 30年 10月 26日 (金) 《先進地視察研修の旅～テ-マ・地域資料の収集と保存》

*** 場所：市立米沢図書館(ナセBA館内) & 上杉博物館 * 詳しくはP.ソフット**

*** 集合・帰宅時間：AM7:50～PM6:00 * 会費：3,500円 をご覧ください!**

< ★ 事務報告及び☆ 関連する図書館事業報告 > *****

★ H30年4月22日：第30回講演会《南相馬市立図書館のプロフィールと課題》講師 齋藤亜記子 係長 (27名)

★ H30年5月18日：第1回役員会。本年度の具体的な企画と講演会の検討。(12名)

★ H30年6月14日：会報52号発行

★ H30年6月15日：第2回役員会。講演会の打合せ・準備。(13名)

★ H30年7月7日：第31回講演会《南相馬市立図書館のめざす次のステップを想像しよう》講師 寺田芳朗 氏 (35名)

★ H30年7月20日：第3回役員会。イベント委員会の提案の打合せ。視察研修の旅の検討。(11名)

★ H30年8月5日：市立図書館との共催講演会《絵本作りのうらの裏》講師 波賀 稔 氏(鈴木出版編集長) (17名)

★ H30年8月26日：《第5回大人も楽しむ絵本読みあいの会》(おはなしの蔵) (23名)

*** 9月現在 * 会員数 233名 * みなさん呼びかけあって会員の輪を大きくしましょう! ****